

障害者支援施設 伏野つばさ園

1 基本方針

ノーマライゼーションの理念のもと、すべての利用者の人権と尊厳を守り、自立した生活を地域社会で営むことを基本とし、個別支援計画に基づき、利用者の希望に沿ったその人らしい生活ができるよう支援する。

また、健康管理等に十分配慮しつつ、生産（就労）活動を通じて社会の一員としての役割を担い「自信と誇りを持って暮らせる」よう、障がい者の地域生活を支える。

2 利用者の状況（令和7年3月31日現在）

（1）入所者状況

（人）

利用人数		前年度末利用者数	令和6年度中の入退所状況										利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数	
			入所人員	退所人員	退所理由別											
GH	アポイント等				家庭復帰	施設移管	死亡	就職	サービス変更	他						
		区 分	定員													
継続B型		125	103	5	6	0	0	1	4	0	0	0	1	18,017	60.1%	102
生活介護		40	49	4	4	0	0	0	2	0	0	0	2	8,615	80.1%	49
施設入所		40	41	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	14,274	97.8%	41
5年度	継続B型	125	114	7	18	0	0	0	0	1	0	8	9	20,488	68.0%	103
	生活介護	40	49	4	4	0	0	0	4	0	0	0	0	8,239	76.3%	49
	施設入所	40	39	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	14,120	96.4%	41

（2）障害支援区分

①就労継続B型

（人）

性別	障 害 支 援 区 分							計
	無・非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男 性	11	1	8	31	15	1	0	67
女 性	12	0	8	9	5	1	0	35
計	23	1	16	40	20	2	0	102

③生活介護

性別	障 害 支 援 区 分							計
	無・非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男 性	0	0	2	9	16	5	0	32
女 性	0	0	2	6	8	1	0	17
計	0	0	4	15	24	6	0	49

④施設入所支援

（人）

性別	障 害 支 援 区 分							計
	無・非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男 性	0	0	2	8	13	4	0	27
女 性	0	0	2	4	7	1	0	14
計	0	0	4	12	20	5	0	41

3 事業の実施状況

(1) 作業班等の再編検討

受託系作業班の協力体制や編成について検討を行った。さきゅう班をつばさ班の隣へ配置し、作業の共有、職員の協力体制を整えた。

また、園外班とアシスト班の協力体制をとり業務の効率化を図った。

工賃について、賞与の支給方法を皆で話し合い支給したが、継続して検討しなければならない課題が残った。

自主製造班・園外班の事業分割について検討したが、報酬改定の結果を鑑み事業の分割については見送り、パン工房と菓子工房の統合を行うことにより経営の効率化と作業収入の確保を目指す。はまなす作業所は閉鎖とする。

新規利用者獲得に努めたが、在宅・GHから通所している利用者の長期入院等による利用休止や高齢化等による施設移管が相次ぎ、稼働率の改善にはならなかった。

作業棟の改築・改装については予算的に難しく、修繕やレイアウトの工夫で対応した。

厨房の新設や増築についても難しく、通所利用者は外注弁当等の斡旋に変更した。生活介護については、作業、余暇活動、芸術活動、ミュージックケア、生活支援等、安定的に運営できた。さらにサービスの拡大を検討したい。

(2) 新施設移行3年目の安定的な運営

施設入所支援に関しては、入所定員を満たしている。

短期入所についても、申込みが多く満足していただけるサービスに努めているが、多様な支援が必要な方のニーズが多く対応については今後も工夫が必要である。

生活介護は、高齢者施設や医療機関への利用変更が目立っている。

就労継続支援B型事業については、高齢化、重度化もあり、稼働率が上がりまずい見通しも不安がある状況。

(3) 工賃の目標

自主製造作業・施設外就労については、高工賃を支給することが出来たが、その他の作業班については目標の平均工賃に届かなかった。

全体としては作業種の見直しや職員配置を検討し、目標の平均工賃15,000円に対し、16,721円となった。

生産活動において原材料・諸経費の削減を意識し、経営の効率化を図った。

職員会議・主査会において、予算執行状況や作業収入・稼働率の説明を行い、職員が経営意識を持つことが出来るよう情報提供を行った。

(4) 利用者支援の充実

個別支援計画では、アセスメントを大切にし、ご本人のニーズに基づいた支援が出来るよう、ご本人はもとより、担当者や関係者、また家族を交えて担当者会議を行った。

生活介護では生産活動とともにアート活動、音楽療法、機能訓練等に取り組んだ。

また、就労継続B型と生活介護の併用利用も行っている。

嘱託医、協力医療機関と連携し、各種検診を実施し、成人病等の早期発見・治療につなげた。

インフルエンザワクチンの接種、健康診断等利用者の健康維持に努めた。マスクの着用、手指消毒、換気等を行い、感染症対策を継続している。

個人研修計画を元に、積極的に研修や資格取得に取り組むなど、多くの刺激を受けることで支援の質の向上を目指した。

(5) 経営の効率化

法人の経営状況や当園の経営状況を主査会や職員会議等で伝えることにより、経営改善について意識付けを行った。

また、生産活動において原材料や、諸経費、備品について節約や修繕に取り組み経費の削減、職員の意識変革を目指した。

特別支援学校・医療機関・相談支援事業所と連携を図り、地域における在宅障がい者や入院中の障がい者の見学・実習を積極的に受入れ新規通所利用者の確保に努めた。

稼働率 就労継続B型：60.1%（目標80%）、生活介護：80.1%（目標85%）、施設入所支援：97.8%（目標100%）

（6）地域貢献・地域共生社会に向けた取組

生活介護で取り組んだ、アート作品の展示会をコミュニティプラザ百花堂にて開催した。地域のイベントでの菓子やパンの販売を積極的に行い、地域共生社会の実現へ繋げる。福祉センター内のバス停の清掃や地域美化活動また、降雪時の除雪活動に取り組んだ。パン教室を企画し、地域の学童保育や公民館との交流を行うことが出来た。

4 実習、ボランティアの受入状況

（1）実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
社会福祉士実習	9.10月	1人	7人
鳥取短期大学	6.8.10月	8人	94人
鳥取県新規採用職員体験研修	9月	2人	6人
計		11人	107人

（2）ボランティアの受入実績

実績なし

5 附帯事業

（1）短期入所事業 定員 4人

（2）日中一時支援事業 定員 上記同様

（3）利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	24	617	21	471
日中一時支援事業	0	0	0	0

6 就労支援事業の実績

作業班	6年度目標額	実績額 (前年度実績)	達成率	作業の内容
受託作業班	8,800,000円	7,986,709円 (9,524,890円)	90.8%	部品加工袋詰め、おしぼり加工、端子加工等
園外班	8,000,000円	8,496,639円 (9,665,968円)	106.2%	企業内清掃作業、木工作業、除草・墓石清掃等
菓子製造班	14,000,000円	13,375,475円 (13,383,539円)	95.5%	菓子製造販売
パン製造班	14,000,000円	12,992,933円 (14,614,363円)	92.8%	施設給食、受注パン製造販売
喫茶班	1,800,000円	873,376円 (1,778,480円)	48.5%	コーヒー、軽食等の販売・配達
計	46,600,000円	43,725,132円 (48,967,240円)	93.8%	